

事業者排出量削減報告書

(宛先) 京都府知事		平成29年 7月28日								
報告者の住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京田辺市甘南備台3丁目17-1		報告者の氏名(法人にあっては、名称及び代表者名) ニッタ・ハース株式会社 代表取締役社長 千葉 光隆 電話 0774-68-0851								
主たる業種	他に分類されないプラスチック製品製造業					細分類番号	1	8	9	7
事業者の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 第12条第1項第1号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第2号又は第3号 <input type="checkbox"/> 第12条第1項第4号					京都府地球温暖化対策条例施行規則				
計画期間	平成26年4月から平成29年3月まで									
基本方針	地域及び地球環境への影響を配慮し、環境負荷を限りなく低減し、地球環境汚染予防に努めます。									
計画を推進するための体制	エネルギー管理統括者である代表取締役社長をトップに、エネルギー管理企画推進者、エネルギー管理員を中心とした省エネ委員会を設置し、全社的に省エネ活動に取り組む									
温室効果ガスの排出の量	温室効果ガスの排出の量	基準年度(25)年度	第1年度(26)年度	第2年度(27)年度	第3年度(28)年度	増減率				
	事業活動に伴う排出の量	3,582.5 トン	3,623.1 トン	3,394.9 トン	3,862.9 トン	1.3 パーセント				
	評価の対象となる排出の量	3,603.0 トン	3,623.1 トン	3,394.9 トン	3,862.9 トン	0.7 パーセント				
実績に対する自己評価		省エネ対策として、製造作業場所である製造室5,6の照明灯を水銀灯からLEDに変更と工場棟事務所の照明をLEDに変更する事で消費電力を削減する事が出来た。温室効果ガス排出量は減少したが、原単位の加工時間(生産量)減少に伴う部分が大きい。								
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	事業の用に供する建築物の用途	原単位の指標	基準年度(25)年度	第1年度(26)年度	第2年度(27)年度	第3年度(28)年度	増減率			
		事業活動に伴う排出の量(加工時間:百時間)	10.09	9.77	10.74	10.54	2.58 パーセント			
		事業活動に伴う排出の量()					パーセント			
実績に対する自己評価		省エネ対策は推進しているが、原単位の加工時間(生産量)大きく減少し、固定エネルギーの寄与が大きくなった。								
重点的に実施する取組の実施状況		基準年度(25)年度	第1年度(26)年度	第2年度(27)年度	第3年度(28)年度	備考				
		33.0 トン	40.0 トン	40.0 トン	45.0 トン					
具体的な取組及び措置の内容	(26)年度	製造室5,6の照明灯を水銀灯からLEDへの変更と工場棟事務所の照明を蛍光灯からLEDへの変更が完了した。また、設備の運用管理強化を継続して取り組めた。								
	(27)年度	前年度に工場事務所のLED化の前倒しを行った。今年度予定の措置は設備老朽化のために見送ったが、設備の運用管理強化を継続して取り組んでいる。								
	(28)年度	今年度にボイラー更新を行った。また、設備の運用管理強化を継続して取り組んでいる一方、製品品質安定化のための温調設備導入の排出量増加の動きもあった。								
通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置	措置の内容	措置なし								
	上記の措置を実施した結果に対する自己評価	最寄駅からの公共交通機関が無い為								
森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量	区分	第1年度(26)年度	第2年度(27)年度	第3年度(28)年度	備考					
	森林の保全及び整備によるもの	トン	トン	トン						
	地域産木材の利用によるもの	トン	トン	トン						
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの	トン	トン	トン						
	グリーン電力証書等の購入によるもの	トン	トン	トン						
	温室効果ガス排出量の削減又は吸収の量の購入によるもの	トン	トン	トン						
	合計	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン						
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	環境マネジメントシステムの正確な運用									
特記事項	第一計画期間の超過削減量を、第二計画期間の温室効果ガス排出量から次のとおり差し引く。									
	超過削減量	第1年度	第2年度	第3年度						
	トン	トン	トン	トン						

注1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。
 注2 「細分類番号」とは、統計法(平成19年法律第53号)第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。
 注3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の3年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。
 注4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。
 注5 「重点的に実施する取組の実施状況」とは、温室効果ガスの排出の量を削減するために重点的に実施した取組の実施率を地球温暖化対策指針で定める方法により算出して記入し、その算出の根拠となる資料を添付してください。